



## 五才児の保育

——子どもたちの話し合い——

石井達子

五才児後半の保育ということで、言語生活の中の「子どもたちの話し合い」について書いてみたいと思います。

子どもたちの未分化な生活状態をみていますと、どこまでが〇〇生活で、どこまでが△△生活だというような区別をすることはむずかしく、わけても、言語生活は子どもたちのいろいろな生活面と深いつながりがあり、これだけを切り離してうんぬんすることは、多くの問題があります。しかし今のような社会でこそ、人の意見や話を素直に受け入れ、自分もまた堂々と自信をもって考えをのべたり、話し合いによってことを運んだりでき、正しいことを卒直に実行にうつせるような子どもに育てたいと願うのは私ひとりではないでしょう。そのような態度や考え方が、すべての他の行動や考え方と同じように、幼児時代のき細な経験の積み重ねから生まれると

したら、いや生まれると考えると、私共はそこにもまた、なすべきことの多くがあることを痛感いたしました。理論も技術も未熟なので「話し合う」と一口にいいますが、「合う」ということはなかなかむずかしく、幼児にそのようなことが可能かどうか、適当かどうか、またもし可能として、それをしたために幼児の心の中にどんなことが受けとめられ、積まれていくのか、その辺のところをしっかりと押えて構えた場合ではなく、こうしてみたら、こうなったという報告に過ぎませんが、以下御紹介いたします。

### 子どもの姿について

年長組になって、うれしそう、照れくさいような、張りつめた

四、五月をすぎて、子どもたちはやっと「自分」をとりもどしたといえましょうか。緊張が落ちつきに変わり、やがて好きな遊びに打ち込む姿がほほえましく、あちこちで「その子らしさ」を発揮しはじめます。「年長組になったら急におとなしくなっちゃった。ばかにお利口になっちゃった」などという急変も影をひそめ、それぞれが本来の姿にかえって遊ぶうちに夏休みを迎えます。二学期になるとこれまた驚くくらい友だちとの結びつきが深くなり、運動会などにはその協力の姿がめだちます。五才児は五才児としての生活ながら、やがては小学校へいく子どもたちなのでそこからその点も考慮されて、三学期は一足とびに大きくなったようです。

教師としても四才児の一年間は、あるいは五才児の一学期（一年保育の場合）は、個々の子どもの性格や行動をみつめながら、いろいろな人間関係の中で集団生活になれさせていくようにしむけていきますが、五才児の後半では幼年期を更に充実させようとはりきる時でもありましょう。言語生活においても、上記の子どものすがたを併行して「話し合い」の場を次のようにとってみました。

#### バズ討議？（その一日目）

ねらい 一つの場（ふんいき）の中で自由に自分の話したいことを話す。

場面 保育室の中で円型に腰かける。

教師 「先生ね、ちょっと御用ができて五分くらい職員室でお話

していますから、そのあいだね、皆も腰かけたままおとなりの友だちと好きにおしゃべりしていてね。でもね、何かお約束きめておかなくて大丈夫？」いつの間にか先生の言おうとするのを感じとってしまふ子が何人かいる。「お話をするときは静かに！」と子どもたち。「そうね、自分たちだけ大きな声でお話していると他の人のお話の邪魔になるわね。小さい声でお話しましょうね。それからもう一つお約束しておいた方がいいと思うことがあるの。いま腰かけている席から離れてはいけませんよ。自分のお隣りにいる人とお話するのね。それじゃいってきますね」「先生、僕お話なんかいいよ」と、そーッといいにくるT君。「ない人はだまってお友だちの話聞いていればいいわ、ね」と言いおいて保育室をでる。観察室があればそこにはいり、子どもたちがおしゃべりしているようすを記録したい。が、ないので子どもたちの目のつかない所で声をきく。五分くらいたった頃、保育室に「ただいま」といってもどっていく。ガヤガヤ、ワイワイが一瞬おさまる。

教師 「どう？ たくさんお話できた、おもしろかった？」といながら次の遊びにはいる。

#### バズ討議？（その二日目）

ねらい 前回と同じ

場面 楽隊あそびをする前の数分間、保育室内に円型に腰かける。

教師 「先生ね、楽器をもってきますからね、その間、この間み

たいにお隣りの友だちと好きなお話をしているね。お約束もこの前の時と同じよ」と言いおいて楽器をとりいき、楽器をもって静かに室内にはいり、楽器をそろえるようすを装って子どもたちの状態を観察する。楽器を、三回にわけて運び、その間に子どもたちのようすを観察する。

#### ハズ討議？（第三回目）

前二回とほとんど同じかたちで行なう。

#### ハズ討議？（第四回目）

ねらい 自由に話す、今話していたことを友だちに発表する。

場面 リズム遊びのため集まった時の数分間、保育室内で円型に腰かける。

教師、前三回とほとんど同様にして話させるが、保育室にもどってきた時、「おもしろかった？ 今ね、何のお話をしていたのか、先生やお友だちに教えてちょうだい」といって子どもたちを見まわす。「誰でもいいわ、お話したいひと？」「先生ね」とそばに寄ってきて「そーと教えてくれる子もいる。先生！」と手をあげて言おうとする子もいる。「僕たちね」と二人称で報告する子もいる。話題は多種多様である。デパートにいった話、ロケットの話、飼育している鳥、犬の話など、五、六人の子どもが話をする。

このようにして討議？を五、六回くり返すうち、

・皆が話し合いの場になれ、

・いろいろな友だちと話し、  
・話題が豊富になり、  
・発表しようとする子どもが多くなり、  
・先生が保育室内にいても平気でその時間内は自由におしゃべりすることになった

#### ハズ討議？（第七回目）

ねらい 一つの話題について、好きな友だちと自由に話す。

場面 保育室内で自由体型、好きな友だちと組む。

教師 「今日はね、一つのことを皆がお話しよう」「先生一つのことってどんなこと」「何のことかわからないな」という顔をして黙っている子もある。「あのね、いつも好きなこと勝手におしゃべりするでしょう、でもね、今日はね、動物のお話しよう。動物のことならなんでもいいのよ。動物の話がどうしてもないひとは何でもいいことにしましょう。でもね、幼稚園のお庭にいる、うさちゃんのことでもいいし、おうちでかっている猫のことでもいいのよ」といって、教師も、話のはずまないグループにはいって話をはじめ、他のグループからこんな声がかきこえてくる。T子、U子、Y子の三人だ。

「うちに猫何匹いるかしってる？」とT子、

「知らない、知らないけど二匹？」とU子、

「ちがうわ、四匹よ。ダケに、クローニャンに、くろにチーよ。ママ

とハハとお兄ちゃんとおたしが一匹ずつだいてねるのよ」

「のみがつかない？」とY子、

「だいじょうぶよ、いつもきれいにしてるもん」「うちのママ猫きらいよ」「猫ってねずみとるわよね」「だけど、ひっかかれると痛いわよ」あたし引っかかれたことないわ」「この間うちのダケおなべひ

っくりかえしたの、そしたら、いなくなっちゃったから、どうしたのかと思ったら、コタツの中でおとなしくしてるのよ、悪いことしたと思っただのね、きつと」

女児だけのグループと男児だけのグループとは話題の運び方が何となく違うなと思う。短い時間だがこのような楽しい話し合いの場をつみ重ねていくうちにかなり「話し合う」ということが上手になったようだったので次には「相談」という場をもたせてみました。

二学期も終り頃になると、設定されたグループの中で友だち同志の結びつきが非常に強くなり、グループとしての性格もできておもしろくなります。誰が当番（リーダー）になっても、スムーズにことが運ぶグループがあると思うと、どんな話し合いの時でも一もめしなないとおさまらないグループもあります。

#### 相談（第一回目）

ねらい 困ったことがあったら何でも友だちに相談する。

場面 何かものがなくなった時、忘れものをした時、製作しているときなど個々の場で、

子ども 「先生上ぐつがないの」「昨日かえる時ちゃんと靴箱の中にいれておいた？」「うん」「それじゃないなんておかしいわね、じゃね、おともだちに『知らない』ってきいてどうしたらいいか相談してごらんさい」

子ども 「先生こごうやるの」「そうねどうしたらいいかな、Mちゃんと相談してごらん」

結局は教師が教えることになることもありますが、なるべく友だち同志相談するという場をふませます。

#### みんなで相談（第二回目）

ねらい 一つの目的に向かってグループのメンバーが皆で相談して作る。

場面 保育室内で各グループにわかれて、長期欠席のお友だちに お見舞いの品を相談して作る。

このような相談の場面は、どこでもよく見かけますが、どんな場合でも

- ・やさしい方からむずかしい方へ、
- ・何度もくり返しくり返しする（経験させる）、
- などが大切でしょうか、

以上五才児の生活のほんの一断面にすぎませんが、こんなき細な心やりで、丸楽に話せる、素直にきける子どもにしてやりたいものだと思います。

（文京第一幼稚園）